



活用事例

空撮サービス株式会社様

2015年からドローンを利用した空撮サービスを提供している空撮サービス株式会社様。空の産業革命といわれるドローンで真にお客様の業務革新につながるよう、目的に応じた装備をドローンに付加したシステムの開発を行っている。LiDARなどと組み合わせた自動飛行制御ソフトの開発や市販の一眼レフカメラ搭載のためのジンバルの設計製作から、360° 全球カメラの搭載まで、お客様の利用目的に応じたドローンシステムを準備し、それらを使った飛行・撮影・編集・解析などのサービスを提供。

<http://www.0photo.co.jp/>

ドローンのデータを素早くバックアップして共有

2015年からドローンを利用した空撮サービスを提供している、空撮サービス株式会社様。撮影だけではなくドローンの開発も手掛けています。膨大な撮影データの管理をするためのAOSBOX Business活用方法などについてお伺いしました。



(左) 代表取締役社長 山本 哲男氏、(右) 営業部長 高木 実氏

ドローンの飛行プログラム、ファームウェアを作ることができるのが強み

Q ドローン自体について教えてください。誰でも手軽に飛ばせるイメージがありますが、その一方で墜落などのニュースも見かけます。

ドローンというのは、実はソフトウェアで飛んでいるんですね。普通のラジコンというのは人間が飛ばしてまして、操縦しなかったら一瞬で落ちちゃうものなんですね。特にヘリコプターなんていうのは本当にどンドン落ち始めたら加速していくので、そういう状況の危険なものなので、全く気が抜けない。

ところが、ドローンというのは手を離すと、空中で静止するんです。これは本当にすごいことで、よくマスコミではドローンが落ちるっていう表現をしますよね。しかし、落ちることはないんです。落とそうと思っても落ちません。ラジコンは落ちますが、ドローンは落ちないんですね。強風での飛行や木に衝突させたり、電池切れ等の様な無謀な飛行をしない限り安全なんです。勝手にドローンが安定して飛行します。

そういう状況なのでどういう人でも使えるように作ってきているということがありまして、単価が下がってきたということもありました。

Q 誰でも使えるようになってしまっている中で、御社の強みはどのあたりにあるのでしょうか？

価格競争になってきて、苦境に陥っている会社もあるんですけども、当社は、ドローンそのものの開発をしているんです。高速道路や橋梁などの検査に使う

ようなドローンは、特殊な状況で人間の目では見ることができない場所で活動しないといけません。そのためには専用のプログラムを開発する必要があって、非常に高度な能力が必要なんですね。こういうことができるのは、日本でも数えるほどしかないのですが、関連会社にフォーディーネットワークスというシステム開発会社を持っているので、飛行プログラム、ドローンのファームウェアを作ることができるのが強みですね。

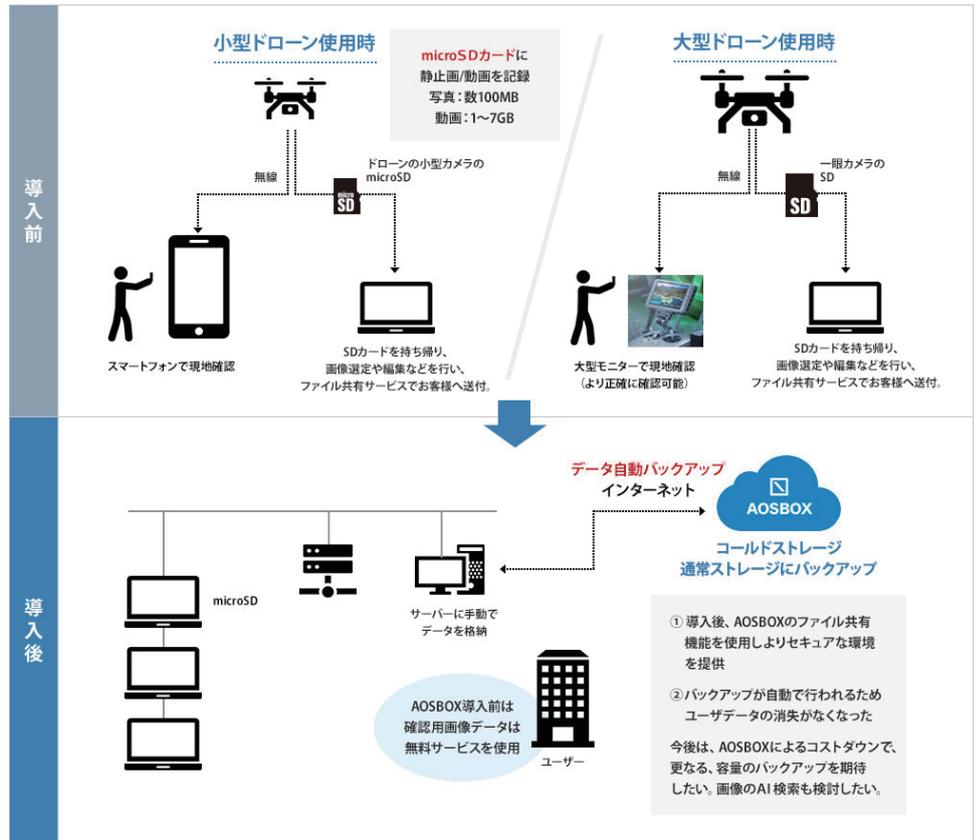
セキュリティ面を考慮するとAOSBOXの一択でした

Q 撮影されたデータはSDカードなどに保存されていたのでしょうか？

そうですね、お客様が立ち合いの場合はその場でご確認いただくこともありますが、撮影した動画などをずっと見てもらうのは大変なので、SDカードなどに保存してからPCに保存し、無料のファイル共有サービスを使っていました。

Q AOSBOX Businessを導入されて変わったところはどのあたりでしょうか？

やはりセキュリティ面の安心感です。いろいろなサービスを検討しましたが、セキュリティ面からお客様で禁止されている共有サービスが多く、実際はAOSBOXの一択でした。自動バックアップなのでデータの消失もないですし、AWSの国内サーバーを利用しているということも大きなポイントです。海外サーバーですとNGのお客様もいらっしゃいますから。



Q AOSBOX AIプラスではAI検索機能も追加されていますが、御社ではどのように活用できるでしょうか？

ファイル共有の容易さと高い検索性に期待しています。納品後にデータを見たいというお客様も多く、膨大な画像や映像データを検索するのは至難の業でしたがそれが解消できると思います。次期バージョンで導入される予定の、動画を数分間隔で静止画像にする機能に期待しています。レビュー機能があっても全部見ないといけない場合がありますから。



Q ドローンを利用した空撮について今後の展望を教えてください。

ドローンの空撮そのものはものすごい勢いで普及しつつあるので、これから先は360°撮影などの技術や環境が変化していくと思います。

日本には橋が70万橋くらいあります。これがどんどん老朽化して、もう40年くらいたってきた限界にきはじめている。いつ崩落してもおかしくない状況なんです。国交省が5年に1回必ず検査しなさいと決めています、コストがとんでもないのでなかなか進んでないです。

工事をやっている人たちが飛行訓練して、難しいところを自分で飛ばすのは無理がありますので、自動で飛行できるようにプログラムを作成しようと考えています。公的な仕事も増えてくるということで、セキュアな環境でのデータの整理・保管・共有がますます重要になってくると思います。



AOSBOX

活用事例

特許業務法人白坂様 様

2011年4月1日に開設。日本国内・外の知的財産分野全般に関する様々なサービス業務を総合的に提供。「企業実務と事務所実務の経験」を活かして、事業戦略における知的財産の全体的な位置付けや役割を理解し、知財戦略・戦略を練った上で、質の高い仕事をスピーディーに行なっている。

<http://shirasakapat.com/>

AOSBOXの利用で90%以上のペーパーレス化を実現

特許事務所といえば書類の山に囲まれているイメージがありますが、特許業務法人白坂様では90%以上の書類をAOSBOXで管理しています。ペーパーレス化に至る経緯、AOSBOXの活用方法などについてお伺いしました。



日本国内・外で商標・特許取得業務を展開

Q 特許事務所というと大手企業の知財部からの案件が多いイメージがありますが、主な業務はどのあたりでしょうか？

日本では企業数に占める大企業の割合は0.3%といわれていますが、特許の出願数は大企業が全体の85%を占めています。その中で、弊所では私が業界内では若いということもあってか、2011年の開所以来、大手企業だけでなく、ベンチャー企業様や海外の案件も多くなっています。

Q 取り扱うデータはやはりWordなどの文書や図面のCADデータなどでしょうか？

はい、Word、Excel、CADなどの図面データは多いですね。機械の動きを見るための動画ファイルもあります。それ以外はミーティング時の音声メモもバックアップをしています。お客様との遠隔ミーティングがあって、私は対面でスタッフが遠隔のような場合ですね。パソコンを通してしまうと音声が悪くなるので、ICレコーダーで私が録音してAOSBOXで共有しています。

基本的に事務所内には紙はありません

Q 文書や図面などのデータはどれぐらいがデジタル化されているのでしょうか？

サインしなければいけない書類や契約関連の書類は紙で残っていますが、それ以外のものは基本的にデータにしています。今では90%以上はデジタル化されています。会社員時代の2009年ごろ

からデジタル化が進んできたこともありますし、弁理士としての修業時代の事務所では紙が膨大な量になっていて、レンタル倉庫を借りていたこともありました。やはり紙は管理が大変なのでデジタル化をそのころから考えていました。もちろん紙の方が見やすいというスタッフもいますので、その場合は印刷して機密文書リサイクルサービスを利用しています。

Q 2011年からというかなりのデータ量があると思います。どのように管理されていたのでしょうか？

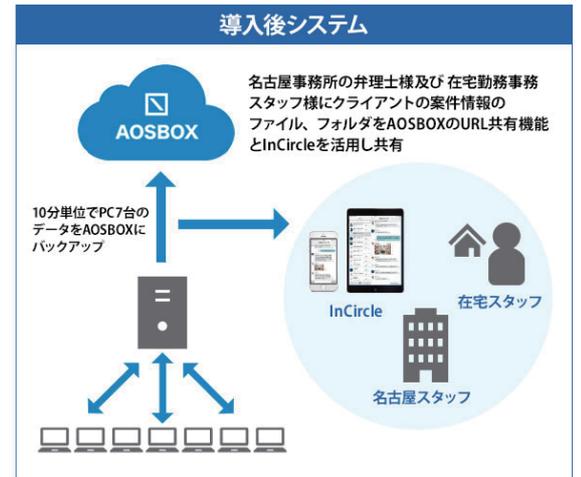
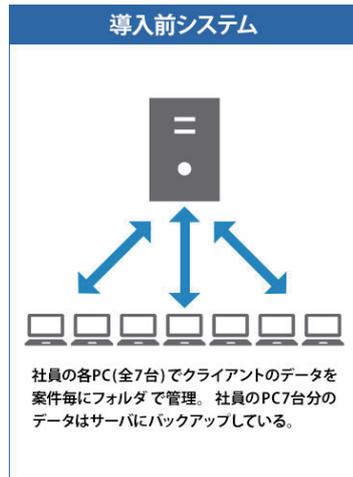
機密書類を扱うことが多いので、当時は外部から遮断したスタンドアロンのパソコンにデータを入れて、必要な情報だけを事務員さんからEメールで送ってもらうというやり方をしていました。容量によってはクラウドストレージを使っていましたが、今はAOSBOXのURL共有だけしか使っていませんね。そのころはこの方法しかなかったので面倒とは思いませんでしたが、今となっては大変なことをしていたな、と思っています。

またバックアップも外付けのハードディスクを買ってきて、バックアップソフトを入れて保存していました。

ビジネスチャットのInCircleも活用して事務所間のデータを共有

Q 名古屋にも事務所をお持ちですがデータはどのように共有されているのでしょうか？

以前はスタッフの各PCで案件ごとにデータを管理して、先ほどお話ししたようにスタンドアロン



のマシンにバックアップをしていました。今ではAOSBOXで10分単位でバックアップをしています。すべてをバックアップしてしまうと探せなくなってしまうので、各自のPCからこちらに送ってもらい、それを事務員さんがルールを決めてバックアップ用の領域に保存しています。

共有はInCircleを使っています。メールだと誤送信もありますし、送信も受信も面倒なのですが、ビジネスチャットだとスムーズですね。URLを送るだけで共有ができますから。

Q ビジネスチャットを導入している特許事務所は珍しいと思います。

InCircleは目に見えてというか、仕事のやり方が劇的に変わりました。特許事務所が一番怖いのがメールの誤送信です。弁理士は期限のあるアクションが多く、日本で出願したら1年以内にアメリカ出願とか、3年で審査請求って審査するための手続きとか、とにかくお客さんへのメールが多いんです。

誤送信という問題を抑えるために何十もチェックしていたんですけど、導入後は内部のやりとりに関しての誤送信問題は基本はなくなりましたね。今ではメールの利用はほとんど禁止をしています。

類似文書の検索などにAOSBOXのAI機能を使いこなしていきたい

Q AOSBOXに対するご要望などはあるでしょうか？

1つだけあります。URLでのファイル共有はとても便利なのですが、そのURLを管理できる機能があれば良いと思います。誰に、いつ、共有したのかが把握できれば管理がしやすいですし、あとからURLを無効にする機能があれば予期せぬ情報漏えいも確実に防ぐことができます。

Q バックアップされたデータの活用についてはどのようにお考えでしょうか？

弁理士の仕事では意見書や補正書を作る時がありますが、その際に過去の書類などを参考にしたい時があります。ファイル名に意見書補正書と書いてあると今でも検索できるのですが、ちょっと近いんだけど近くないような文章・・・、ファイル名だとなかなか見つからない内容ですね。そのときにファイル内の文章に対して近い言葉で類似検索とかできたら最高に便利だと思います。

AOSBOX AIプラスではOCR機能もあってPDFも検索できるので、このあたりの機能を使いこなして、さらなる業務効率化をしたいですね。

